



平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月7日

上場取引所 東名

上場会社名 井村屋グループ株式会社
コード番号 2209 URL <http://www.imuraya-group.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 寺家 正昭
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役部門統括 (氏名) 大西 安樹

TEL 059-234-2146

四半期報告書提出予定日 平成27年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	7,700	3.0	△267	—	△198	—	△170	—
27年3月期第1四半期	7,477	3.2	△291	—	△269	—	△220	—

(注)包括利益 28年3月期第1四半期 △143百万円 (—%) 27年3月期第1四半期 △209百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	△7.02	—
27年3月期第1四半期	△9.05	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	25,760	10,661	41.3
27年3月期	24,985	11,047	44.1

(参考)自己資本 28年3月期第1四半期 10,632百万円 27年3月期 11,018百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	18,500	6.9	350	45.9	400	14.4	150	△31.8	6.19
通期	38,000	4.5	800	79.0	950	35.6	450	18.0	18.57

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期1Q	25,644,400 株	27年3月期	25,644,400 株
② 期末自己株式数	28年3月期1Q	1,416,500 株	27年3月期	1,416,400 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期1Q	24,227,925 株	27年3月期1Q	24,352,492 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、引き続き緩やかな回復基調で推移しましたが、中国の経済成長率の鈍化や、ギリシャ債務問題が懸念されるなど、不安定な状況が続いています。

菓子・食品業界におきましても、企業間の競争が激化する中で、原材料費やエネルギーコストが高止まりの状況であり、厳しい経営環境で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは2015年度から2017年度を期間とする新しい中期3カ年計画「One imuraya 2017」の初年度にあたり、目標達成を確実にするための重要な1年と位置づけ、グループ経営を進化させるため、顧客へ新しい付加価値を提供し続ける「NEWの創造」をキーワードに企業価値の向上を目指した事業活動を展開しました。

また、4月より新しい人事制度を導入し、社内の有用人材の発掘とグローバル化への対応を目指した制度運用を開始いたしました。

全グループで取り組んでいる「経営品質向上活動」も事業活動の基軸として内容を高めながら、活動を推進しております。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、冷菓商品において、主力の「あずきバー」シリーズに新たに投入した「ゴールドあずきバー」シリーズが好評をいただき、立ち上がり期の4月～6月は順調に推移しました。また、新しい提案を行っている「ようかん類」も伸長し、前年同期比2億22百万円(3.0%)増の77億円となりました。

利益面では、原材料費の高止まりやエネルギーコストの上昇が続く中、バイオマスボイラの導入効果により動燃費の低減が図られました。また、SCMの徹底に伴う在庫圧縮により物流コストが減少し、営業損失は2億67百万円(前年同期比23百万円の改善)、経常損失は1億98百万円(前年同期比71百万円の改善)となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億70百万円で前年同期より50百万円の改善となりました。当社グループの第1四半期業績は損失を計上する傾向ではありますが、昨年に引き続き損失の改善が図られ、この期間の黒字化に向けて更に一歩進めることができました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

① 流通事業

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

(菓子・食品・デイリーチルド)

菓子については、新チャネルへの商品展開を進めている「ようかん類」で新形態の「スポーツようかんプラス」や「招福羊羹シリーズ」が順調な推移となりました。焼き菓子の成長戦略商品として販路拡大に取り組んでいる「どら焼き」は「和菓子屋のどら焼き」シリーズが着実に売上を伸ばしました。また、水ようかんギフトとして付加価値の高い「ゴールド水ようかん」を発売し、需要期に向けた新しい商品提案を行っております。「カステラ類」は中国の井村屋(北京)食品有限公司(IBF)から米国への輸出が増加するなど海外での売上が計画に沿って推移し、菓子全体の売上高は、前年同期比21百万円(1.5%)増の14億75百万円となりました。

食品については、夏物商品でスパウチタイプの「こだわりの氷みつ」を発売し好評をいただいております。また日本フード株式会社でのOEM受託商品の売上が増加し、売上高は前年同期比71百万円(7.3%)増の10億43百万円となりました。

デイリーチルド商品では、「豆腐類」で「美し豆腐」や業務用商品が堅調に推移し、売上高は、前年同期比2百万円(1.0%)増の2億6百万円となりました。また、豆腐事業では、新たにSOY(大豆)事業への変革に取り組み、新機能豆腐として「高カロリー豆腐」の商品化を進めております。

(冷菓・加温)

冷菓商品は、主力商品の「あずきバー」シリーズに付加価値の高いプレミアム商品として発売した「ゴールドあずきバー」シリーズが好評をいただき売上に貢献しました。「あずきバー」シリーズ全体の4月～6月の売上本数は7,600万本(前年同期比2.7%増)と順調に推移しており、年間3億本の売上を目指します。また、「やわもちアイス」シリーズの「やわもちアイス最中」も引き続き好調に推移し売上が増加しました。米国でアイス事業を展開しているIMURAYA USA, INC.においてもOEM受託商品の売上が増加するとともに、以前より取り組みを行ってきた井村屋ブランド商品の大手量販店への導入が4月より開始しました。その結果、冷菓商品の売上高は、前年同期比1億83百万円(6.1%)増の31億76百万円となり、最需要期に向け期待がもてる状況となっております。

「肉まん・あんまん」などの加温商品は、売上高は前年同期比45百万円（6.5%）減の6億48百万円となりましたが、SNSを活用した販売促進やキャンペーンを計画的に実施し、シーズンに向けた準備を着実に進めております。また、食品カテゴリーの「冷凍まん」、デイリーチルドカテゴリーの「チルドまん」を含めた“肉まん・あんまん類”において「ゴールド肉まん・あんまん」がデザイン面で評価され、「日本パッケージデザイン大賞2015」入選を果たしました。高い評価をいただいたパッケージデザインを活用し、更なる拡売に繋げてまいります。

(スイーツ)

「アンナミラーズ」「ジュヴォー」のブランドを活かした事業展開を行っているスイーツでは、アンナミラーズ高輪店が引き続き堅調に推移し、「ジュヴォー」においても催事販売の効果により認知度が高まり、店舗での売上が増加いたしました。また中国天津で2店舗を出店している「アンナミラーズ」もブランドの認知度が高まっており、スイーツの売上高は前期と同様の83百万円となりました。

この結果、流通事業の売上高は、前年同期比2億31百万円（3.6%）増の66億33百万円となり、セグメント利益（営業利益）は34百万円となって、前年同期よりセグメント利益が19百万円増加いたしました。

② 調味料事業

国内では井村屋シーズニング株式会社が、自社素材商品とOEMに加えて、ODM（Original Design Manufacturing）市場での新規顧客獲得やハラール認証も活用した海外市場への商品提案に取り組み、顧客ニーズに対応する活動を行いました。既存受注先の生産調整の影響もあり売上は減少しましたが、生産性の向上やエネルギーコストの低減が図られ、損益面では前年同期を上回りました。成長戦略に取り組んでいる中国での調味料事業では北京に拠点を置いている北京京日井村屋食品有限公司（JIF）は中国国内の売上が増加し、大連に設立した井村屋（大連）食品有限公司（IDF）も本格的な生産を開始いたしました。

この結果、調味料事業の売上高においては、前年同期比11百万円（1.2%）減の10億13百万円となりました。損益面では新会社の井村屋（大連）食品有限公司（IDF）が立ち上がり期でもあり、セグメント損失（営業損失）は17百万円となりましたが、計画に沿った事業活動を展開しております。

③ その他の事業

イムラ株式会社が行っているリースや保険の代理業は堅調に推移し、井村屋商品のアウトレット販売を行っております「MOTTAINAI屋」は更なるお客様へのサービス向上を図り、地域住民から引き続き好評をいただきました。また、本社所在地である三重県津市の近鉄津駅構内に店舗している「彩（いろどり）ストアー」の運営を今期よりイムラ株式会社に移管し、店舗の改装を行うなど、顧客満足の向上と商品のPRに取り組んでおります。その結果、その他の事業の売上高は54百万円となり、セグメント利益（営業利益）は7百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は257億60百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億75百万円の増加となりました。流動資産は、夏物商品の最盛期に対する供給体制を確実にするため、製品在庫の増加等により、8億32百万円増の107億37百万円となりました。固定資産は、有形固定資産の減価償却等により、49百万円減の149億88百万円となりました。

負債は150億98百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億61百万円の増加となりました。流動負債は、夏物商品の生産に連動した短期借入金、未払金の増加等により、13億42百万円増の127億88百万円となりました。固定負債は、長期借入金の短期借入金への振替や、リース債務の減少、退職給付に係る負債の減少等により、1億80百万円減の23億10百万円となりました。

純資産は配当金の支払等により、3億85百万円減の106億61百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末44.1%から41.3%へ減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期に向けて、夏場の主力商品である「あずきバー」の売上増加など、8月以降は順調に推移をする見込みであり、また、冬場の加温商品の導入計画も順調に進捗しておりますので、平成27年5月8日付の「平成27年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、景気の停滞や世界的な経済状況の変動、原材料の高騰などの環境変化によって業績予想の修正が必要であると判断される場合は、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)第39項に掲げられた定め等を適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	973,795	1,512,112
受取手形及び売掛金	5,389,239	5,255,491
商品及び製品	1,784,809	2,405,313
仕掛品	299,595	313,402
原材料及び貯蔵品	493,592	515,613
その他	964,667	736,651
貸倒引当金	△1,204	△1,254
流動資産合計	9,904,495	10,737,330
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,321,505	13,289,460
減価償却累計額	△8,355,016	△8,383,100
建物及び構築物(純額)	4,966,488	4,906,359
土地	4,268,751	4,268,751
その他	14,823,921	14,998,886
減価償却累計額	△11,722,907	△11,887,890
その他(純額)	3,101,014	3,110,995
有形固定資産合計	12,336,254	12,286,106
無形固定資産		
その他	138,949	132,480
無形固定資産合計	138,949	132,480
投資その他の資産		
投資有価証券	2,035,854	2,111,412
退職給付に係る資産	93,584	100,604
その他	458,265	383,197
貸倒引当金	△25,325	△25,325
投資その他の資産合計	2,562,379	2,569,889
固定資産合計	15,037,583	14,988,476
繰延資産	43,011	35,021
資産合計	24,985,091	25,760,827

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,818,653	3,820,847
短期借入金	3,540,000	5,340,000
1年内返済予定の長期借入金	425,283	350,331
未払金	1,709,768	1,906,961
賞与引当金	461,295	324,451
その他	1,491,141	1,045,755
流動負債合計	11,446,141	12,788,347
固定負債		
長期借入金	300,204	250,248
引当金	15,120	13,545
退職給付に係る負債	274,776	251,307
資産除去債務	30,592	30,592
その他	1,870,628	1,764,924
固定負債合計	2,491,321	2,310,617
負債合計	13,937,462	15,098,965
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,253,900	2,253,900
資本剰余金	2,240,523	2,240,523
利益剰余金	4,749,508	4,337,063
自己株式	△671,372	△671,435
株主資本合計	8,572,559	8,160,052
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	359,887	410,207
土地再評価差額金	1,920,482	1,920,482
為替換算調整勘定	△9,621	△24,008
退職給付に係る調整累計額	175,169	166,148
その他の包括利益累計額合計	2,445,917	2,472,829
非支配株主持分	29,151	28,981
純資産合計	11,047,628	10,661,862
負債純資産合計	24,985,091	25,760,827

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	7,477,795	7,700,731
売上原価	5,187,641	5,336,453
売上総利益	2,290,154	2,364,277
販売費及び一般管理費	2,581,617	2,631,852
営業損失(△)	△291,462	△267,574
営業外収益		
受取配当金	22,889	28,230
雑収入	14,762	15,644
為替差益	-	24,841
その他	13,763	12,707
営業外収益合計	51,416	81,422
営業外費用		
支払利息	11,617	11,554
為替差損	18,044	-
その他	115	750
営業外費用合計	29,776	12,304
経常損失(△)	△269,823	△198,456
特別利益		
補助金収入	3,000	43,200
特別利益合計	3,000	43,200
特別損失		
固定資産除却損	29,009	22,746
特別損失合計	29,009	22,746
税金等調整前四半期純損失(△)	△295,833	△178,003
法人税、住民税及び事業税	47,762	44,034
法人税等調整額	△122,787	△51,659
法人税等合計	△75,024	△7,624
四半期純損失(△)	△220,808	△170,378
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△397	△214
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△220,411	△170,164

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純損失(△)	△220,808	△170,378
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28,819	50,319
繰延ヘッジ損益	85	-
為替換算調整勘定	△10,339	△14,342
退職給付に係る調整額	△6,856	△9,021
その他の包括利益合計	11,708	26,955
四半期包括利益	△209,099	△143,422
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△207,714	△143,252
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,385	△169

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,401,907	1,025,093	7,427,000	50,794	7,477,795
セグメント間の内部売上高 又は振替高	20,531	3,113	23,645	58	23,703
計	6,422,438	1,028,207	7,450,646	50,852	7,501,499
セグメント利益又は損失(△)	15,270	△3,524	11,745	8,916	20,661

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸管理業及び損害保険代理業、リース代理業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	11,745
「その他」の区分の利益	8,916
全社費用(注)	△312,124
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△291,462

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,633,373	1,013,094	7,646,467	54,264	7,700,731
セグメント間の内部売上高 又は振替高	19,637	2,980	22,617	114	22,731
計	6,653,010	1,016,074	7,669,085	54,378	7,723,463
セグメント利益又は損失(△)	34,573	△17,869	16,704	7,649	24,353

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸管理業及び損害保険代理業、リース代理業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	16,704
「その他」の区分の利益	7,649
全社費用(注)	△291,928
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△267,574

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。